

Kyoto Hollywood News 京都ハリウッド通信

火花散るスタジオで チャンバラ初挑戦！ 窪塚洋介「魔界転生」



ラストの柳生十兵衛（佐藤浩市）との対決場面。「前作『凶気の桜』では居合の練習はしましたが寝陣は初めてです。練習中に佐藤さんの指をハネそうになりました。四郎が唯一大きく動ける場面なんで、こんなに四郎って動けるんだというのを見せたいです」（窪塚）

島原の乱で討ち死にした天草四郎が魔界より転生、徳川幕府を滅ぼさんと暗躍する。天草四郎を演じる若手人気ナンバー1の窪塚洋介が、東映が4月26日に公開予定する「魔界転生」でチャンバラ初挑戦。場面は宿敵・柳生十兵衛（佐藤浩市）との最後の戦いというクライマックス。「四郎は動きのない役で動きたくありませんよ。立ち回りの練習でストレスを発散しました」という窪塚。人形作家ホリ・ヒロシがデザインした華麗な衣裳について窪塚は「ホリさんの衣裳のパワーが凄く

て、私服でテストした時、何やってるんだろうみたいな、全然様にならないのが、衣裳を着てメイクしてやると全然違うんですよ」と絶賛。前作の深作版のテーマである魔界転生は真界転生だという事に感銘したという窪塚は島原に向いて役作りに入った。軽くウオーミングアップの後にリハーサル。剣を抜いてゆっくりと無表情に十兵衛に向かう四郎。ここで窪塚は平山秀幸監督に「笑いなから向かうというのはどうでしょう？」と提案し、平山監督はそのアイデアを採用。平山監督は時代劇も京都の現場も初体験だが「現代劇では恥ずかしくて出来ない事でも時代劇では踏み込んで面白くなる」と自らも楽しんで演出。平山監督の号令と共にスタート。上にはスタンバイしたスタッフたちが火花に点火。降り注ぐ火花の中で四郎と十兵衛が文字どおり火花を散らしての対決を繰り広げ迫力満点。



笑って泣いたため元気が出てくる ハートウォーミングムービー！ 「ぼくんち」

西原理恵子原作のベストセラー・コミック「ぼくんち」（小学館刊）を「顔」「KT」などの版本演出監督が、「ナースのお仕事」の親月ありさを主演に迎えて映画化。撮影は昨年、東映京都撮影所をベースに行われ、舞踏で大がかりなロケーション撮影を敢行した。一太と二太の幼い兄弟は水平島の裏の港に住んでいる。かあちゃん（蘭蘭）は家出中。とうちゃんは元からいない。ある日、家出していたかあちゃんが、新しい姉ちゃん・かの子（親月ありさ）を連れて帰り、また姿を消してしまう。その日から姉弟三人のささやかな新しい暮らしが始まる。だが、かあちゃんが男に貢ぐための家の権利を売り飛ばしていた。家を追われたかの子は弟を養うために、以前していたピンサロ勤めに戻る。

ナースから魔界転生に転身、親月ありさがピンサロ嬢となつて幼い弟二人を養う。その他の出演は真木蔵人、岸部一徳、今田耕司、濱口優、新屋英子、志賀廣太郎、笑福亭鶴之助ら

「眼狂四郎全集」

京都が生んだ不出生の大スター・市川雷蔵の代表作として知られる「眼狂四郎」シリーズ全12作がDVD・BOX全3巻でリリース開始。月日殺法で敵を倒して行く華麗な殺陣、謎の美女たちとの妖しいエロシメ、そして狼奇譚、柴田錬三郎の原作を三編研究家ら名匠たちが演出した大映京都の傑作時代劇シリーズが、歴史的な第一巻は愛憎を巡る争いに巻き込まれた狂四郎の活躍を描く「眼狂四郎・殺法帖」再改訂版に贈る限定奉行事守るため狂四郎が悪を斬る。同・勝負、將軍の隠し子が狂四郎の妖刀を我が物にせんと企む。同・月日斬り、シリーズ中最も高難関とされ、狂四郎の出世の秘密が明かされる。同・女妖剣、を収録。「勝負」では若き日の中村玉緒がヒロインとして出演している。



「必殺仕掛人」DVD化決定

必殺シリーズの第1作「必殺仕掛人」のDVD化が決定。仕掛人の第1、第2話を演出したのは先頃他界した深作欣二監督で、テレビとは思えない劇映画さながらの高いクオリティを誇っている。発売はキングレコード。

ファン待望の不朽の名作時代劇 「影の軍団」が18年振りに復活！ 「新・影の軍団」



「新・影の軍団」は3月15日テアトル池袋にて劇場公開。ビデオはGPミュージアムより4月25日発売予定

千葉真一、真田広之が主演した忍者アクション時代劇「影の軍団」は80年から85年にかけて関西テレビ系列で放映された人気番組。同作が18年振りにスクリーンに復活。服部半蔵には再び千葉真一、宿敵・猿飛佐助に松方弘樹を迎え、圧倒的な存在感で忍術バトルを繰り広げる。更に格闘技団体「バンクラス」出身の船木誠勝、「仮面ライダー龍騎」の高野八誠、「百獣戦隊ガオレンジャー」の金子昇らが若手忍者を演じる。豊臣太平の世、徳川の財源である河内家の主・穰忠は仇敵で豊臣家ゆかりの実葛影信の許へ妹・藤姫を連れしれし和平を結ぼうとした目前に病に倒れる。その遺志を託された家康の家臣・徳川十六将の一人である服部半蔵は、織田信長に滅ぼされ各地に散っていた伊賀の里の残党・疾風（山口裕行）、妖騎（高野八誠）、金剛丸（船木誠勝）らを集め、藤姫の護衛を命じる。監督は宮坂武志。

今月の言葉

深作欣二監督急逝。個人的にもお世話になり、楽しみに言葉もない。深作監督はもう一度、京都で時代劇大作を手掛けたかと思われていたそうだが、「たそがれ清兵衛」「壬生義士伝」のヒットや公開を控えた「魔界転生」「新・影の軍団」、製作中の「蔵流馬」「陰陽師2」など、いつの間にかやらせは時代劇ブーム。時代劇愛好家の小生としては実に喜ばしい風潮。願わくばブラウン管にも時代劇ブームが飛び火して欲しいもの。

責任編集人 山田誠二
1963年生まれ。京都を拠点に、映画のプロデューサー、脚本、評論の他、コミック原作など多方面で活躍の作家。映画関連著作多数執筆。

2003年3月1日 山田誠二

トピックス

北野武が座頭市に挑戦！

勝新太郎の当たり役で大阪京都の大ヒットシリーズ「座頭市」のリメイクが決定。勝新太郎の後を継いで座頭市を演じるのは北野武。北野こと北野武。冒目でヤクザで居合切りの達人という傑出したキャラクターを世界に巨匠となった北野武がどう演じるかが注目される。座頭市のリメイクは以前、役所広司が企画されて実現が待たれていたが中止となっていた。

トップレースクイーン

牛川とこがくノ一にトップレースクイーンのみならず、今やテレビ、雑誌などで幅広く活躍する牛川とこがくノ一に挑戦。くノ一忍法伝・妖獣雷光で主演を果たした。

原口智生の妖怪新作映画開始

妖怪メイトの第一人者で、妖怪映画「さくや妖怪伝」を監督した原口智生の新作妖怪映画が開始。本年1月より松竹京都映画撮影所で撮影が開始された。